

イベント  
シンポジウム メキシコの知られざる大衆漫画「イストリエタ」



日時 2019年12月7日(土)13:30～16:30  
12月8日(日)13:30～15:30

会場 京都国際マンガミュージアム 1階  
多目的映像ホール

出演者

ファン・マヌエル・アウレコエチェア  
(イストリエタ研究者)  
アルマンド・バルトラ  
(メトロポリタン自治大学・ソチミルコ校教授)  
ルベン・エドゥアルド・ソト・ディアス  
(メキシコ漫画博物館館長、漫画家)  
アルバロ・D・エルナンデス・H [司会]  
(国際日本文化研究センタープロジェクト研究員)  
山本忠宏 [コメンテーター]  
(国際日本文化研究センター客員准教授・  
神戸芸術工科大学芸術工学部助教)  
ロナルド・スチュワート [コメンテーター]  
(大東文化大学教授)  
雑賀忠宏 [コメンテーター]  
(京都精華大学国際マンガ研究センター)

人数 200名

主催 京都国際マンガミュージアム  
京都精華大学国際マンガ研究センター  
国際日本文化研究センター  
担当研究員 雑賀忠宏

実施概要

展覧会「メキシコの知られざる大衆漫画「イストリエタ」～民俗文化としての漫画表現～」の開催に合わせて、本展覧会へ出展資料及び解説テキストを提供したイストリエタ研究者を招き、メキシコのイストリエタの歴史とその作品世界、メキシコの国民文化との関わりをめぐるシンポジウムを開催した。最初に登壇したアウレコエチェア氏が、スペイン語にはコミックス的表現を呼ぶ単語が複数ある中で「イストリエタ」という名称を総合的なものとして掲げた意図と、そのメキシコにおける歴史的展開を概説したのち、次いで登壇したバルトラ氏はそうしたイストリエタという表現メディアが、庶民のものとして、いかに近代メキシコにおける国民意識の形成と関わってきたかを中心に論じた。2日目はメキシコ唯一のイストリ

エタ博物館である「MUCAHI BASSOCO」の館長を務めるコミックス作家ソト氏により、産業としてのイストリエタの展開と、作家や編集者たちについてのより踏み込んだ説明が行われた。

本邦ではまだほとんど知られていないメキシコのコミックス文化についてのイベントということもあり、会場には日本のマンガ研究者だけでなく、仕事や国際結婚などでメキシコに関わりを持つ日本在住の一般参加者も訪れるなど、日本のマンガをとりあげたイベントとはまた異なった広がりを感じさせる場ともなった。

なお、本イベント開催に合わせて、ソト氏より私家版のイストリエタ研究書が京都国際マンガミュージアムへと寄贈された。(文責：雑賀忠宏)

